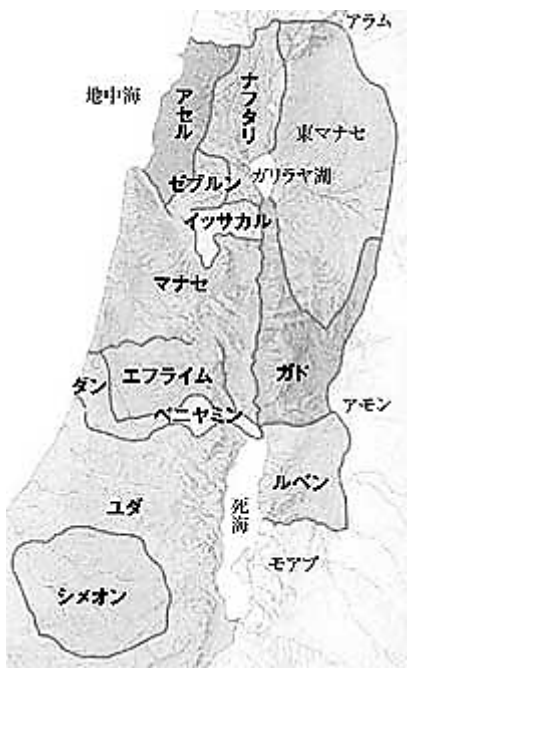


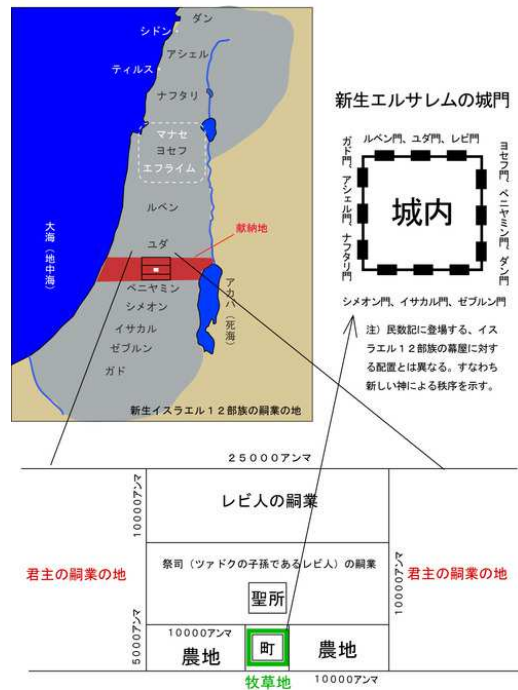
## ✠029 イスラエルの十二部族

イスラエルを構成する 12 部族はもともとヤコブの 12 人の息子からはじまったものですが、ヤハウエに直接所属するレビ族は兵力を数える調査から除外され、かわりにヨセフ族がエフライム族とマナセ族にわけて数えられて、「レビ族+12 部族」となっています。

神の臨在の場としての「会見の幕屋」を中心として、その外側に神に直接的に仕える祭司とレビ族、その外側に 12 の部族が四方に配置されます。こうして組織化されたイスラエルは、前進するときと宿営する時、陣を組みました。なお、エジプトから出てきてパレスチナに向かうので、東側が前（正面）となります（民数記 2 章・3 章）。



エゼキエル書 4 8 章



神の平和的支配は、エルサレムの東西南北にそれぞれ三つある門について、神がさまがそこに 12 部族の名前を配置するのですが、民数記 2 章に登場する聖所を中心にしたイスラエル 12 部族の幕屋の配置とは異なります。それは、過去において神さまがイスラエルの民と契約を結んだ契約を再契約したのではなく、ここにおいて新たな秩序をもって世界を、あるいはイスラエルを支配されることが示されている。